

今日も「丁あがり」

第50話

農機販売店の作業負担を軽減せよ！ の巻



皆さん、明けましておめでとうございませう！ 年末と年始で2度もギックリ腰をしてしまいました。ロブストス高垣でございます。2度目は呼吸もできなくなるほどの激痛に襲われ、動けない悔しさから酒を呑んでソファで気を失ってしまいました。ところが、首が折れ曲がった寝姿勢が奇跡を起こしたのか、目が覚めたら痛みが完全に消えていたんです（笑）。それで思い出したのが、2年前にお世話になったゴッドハンドと噂される整体師の先生。腰に触れることなく、首を軽くいじるだけで、「真面目にやってくれ」と言い、たくなるような施術内容だったにも関わらず、即効で痛みが取れたんです。さらに「足の裏で地球を掴むように歩きなさい」と歩き方を矯正されて腰痛はすっきり治りました。僕の



写真1：ブームスプレーヤーのブームを固定するフレーム。基本構造や使用する鋼材を統一して機種ごとの企画・設計を効率化している



写真2：装着例（中セキTJV883）



写真3：装着例（クボタMZ655）



写真4：ヤンマーYT5113仕様は販社の要望で、フロントウエイトに挟み込む仕様で製作

友達も、協力工場のパートナーも治してもらったので、紛れもない実話です。身体の何を見ていたのか……とても驚かされたプロの仕事でした。どの業界にも名人と呼ばれる方がいらつしやいますが、僕も農家のどんな相談にも一発で回答が出せるモノづくりの名人になれるよう腕を磨いていきたいと思えます。ということで、第50話目行ってみましょう

地域格差を埋める役割も

農機業界には、販社で対応されている加工仕事がたくさんあります。

ブームスプレーヤー（片ブーム仕様）のブームを固定するためのフレーム製作もその一つでしょう。大規模な野菜産地を抱える販社であれば、頻繁に売れるのでフレーム製作にも慣れていきます。一方で、耕作面積を急拡大させた農業生産法人が、これまで売れていなかった地域で導入しようとする、その地域の販社は困るわけです。防除機メーカーからは「フレームは自作してください」と言われ、いざ作ろうとしてもどんなものを作れば良いかわからず、適当な鋼材もなく、ほかに売れる見込みもない——そんな時にロブストスに製作



高垣達郎（たかがき・たつろう）
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に株式会社ロブストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。株式会社ロブストス代表取締役社長。

依頼が入るんです。トラクターの機種ごとに異なるので手間はかかりますが、基本構造を統一することで設計時間を短縮し、一度製作した型式は図面化してリピート対応できる体制にしています。製造工程を簡素化するための技術論を話せば、45度以上回せる切断機や縫い目のない角パイプなど、特殊な機械と鋼材を用いてマニアックにシンプルな作り方をしています。日本社会全体で人手が足りなくなっていくと、不慣れた業務をアウトソースして時間をつくり、自分が全うすべき仕事に集中しなければ、サービスの質は落ちる一方ですよね。ロブストスが農業界の製造部として機能し、現場の作業効率とサービス向上を支える役割を果たせるように今年も努めてまいります。というわけで、ギックリ腰が治って本当に助かった!! 今月も「丁あがり」